

本草綱目

東方再上場斗争と結合して  
否権斗争を無期限入斗云

全蜀西游園爭勝利集会

ゆべての豊安五君、全国當選者は、皆内しみ  
による事に對する反対に、庄則山高揚へと、その根柢  
にカリニチやに丁寧においてとつキ達んでゐる。

社会的分業の要がどく云ふ所にキーパーの前田義重の室  
編で出でて、いわく、時代一派が現代であり、金融力跟制文  
配、日銀政の朝日主義の軍隊化（海陸軍、沖縄の  
前線基地化、核保有、徵兵制）の確立によつて日本  
帝國主義は諸政策と具体的一に結び合つてゐる。此國斗  
争口の段階で決定的は鹿島の高木義重である。

の有機的・体系的一環として再編されて、今般は、

うる、その上に掛ける高麗庄工場の一大企划  
川原口主义的田舎である。我々は大学を川原口庄  
生産工場(マルクスオロギー)の生産工場として  
うなづけ川ほなりない。革マート日本支店、たる  
いは其勢勢を支否ひに語り承及云つ「世界の大学  
は……」口東洋人と断絶してありしとタマ大学の目

延つて我々市大学団体事務所、とり川口、平野、岸田、拒否権、拒否権、  
問題と單なる大学の校内の中での民主化団体であつてはなら  
ない。「大学運営」への参画という次第だとモットコトはなら  
ない。現在我々とのよく論じ承認が大學基本規則の改正として  
前手の同性を提出している。全く犯罪的である。

フ介集の所産が庶衆の自由を成す、せざる事なかつて、小る者  
致一藝術と知識の自立的形態を教育として社会的に組織化す  
る事によつて、社会力再生産の役割を引き受けけるのである。  
従つて教育の社会的組織化の代りなら独自に存続するようにな  
みえるので、かかる形態を通じて支配階級の利害を保護して  
いるのである。

江、学者の自由及存在する」、「いつ群に主張するには附りて  
に説すりである。大学が國家、独立貢本たら相対的自由  
性を有したこととこそ、一日本家財政が社会介業と  
発展させ、より高度な生産性を獲得する技術の発達即ち最大  
限の剰余価値の産出者として活性する必然性」及存在し、及

安保新法の陳地とせよ  
我々は学園斗争には學園斗争の論理をあると、  
奥義をもつて、学園斗争の中から階級斗争終休  
止とはほうなし。遂に階級斗争終休なら併別学  
事と牛ほけ山ほなうなし。

拒否权斗争を、医学無期  
限バリケードストで斗  
しゆく中で、左人民的抗  
争斗争リ安保研辯斗争、  
と発展すせよ／市丈を

支える学生の团结の實ニえど、現行の資本主義生産方式の方々に占める大学の存在とは自体の否定に至る行キつゝござる。」

の決定権を争う。文部省の見解は、この問題が、規制ナシのところと、大字共同体といふ  
枠の中でも個別子音と解釈するところである。

この実、事實、文部官僚の夫りひる等と通じ教説全  
日本大助と支配してしる政行文部省の内閣外業は専横し  
て支那幻想を大陸の支配と手に兵備に、敵兵に行つてしま  
る。且々の諸君は「此」と理解出来ず且つ之に依  
頼し、「自治権ヨウコト」という幻想到達の件の件で間  
題を設定することから其幻想起破しキルけい。

たゞ、國事争は、「民主的外否外」という言葉の問題  
となり、帝國主義の政治経済利益との關係を統一的上記

以上の學園斗争とめぐる帝國主義社會の有様の闇黒性と  
どうするなら國民斗争は曰前打卦の陣地として斗々川山  
川にはうらしく、反戦自争との対照性とモフて自己  
中山だけ山ほぢらば。本邦の別斗争と政治斗争を結  
合し、权力剥奪と剥じぬく石口レタリア統一戦線の準備

学生の意識は、私財開拓所有者を展望して存続としてこの  
マルジヨア的意識であるが、併等は「高度な知識」技術と  
術を学ぶ事を通じて高級甲州力農場として自らのエコと  
貢献せんとするやつであるが、その當初は、農業における  
て農地形状整理を有し、後日又はのちに、教育と自然光中  
的にあるが、間の解放への参与として実現化してよ

をなし得て、現実の間に深く鍛じた的宇宙が形成され  
るのである。したがつてそこから生れ出る批判は  
個別個々の本性と、社会国家に対する批判にまで及ぶ  
同時に「復興ナリ」の問題として左日本国斗争、市丈が國シキヅム  
まる条件を乏し持つてあり、正しい指導なげり、のべなく、全人民的普遍的一全般の問題であるといふこと  
は、改良的要素と革命的実践へと發展するものである。應該へせること同時に、その運動、組織として実践ノセラーハーと  
確々たる自斗争は、個別斗争であり、全人民的政治理  
事や共産東との結合といふ条件及ぼアハカク山は眞う  
に革新的斗争に転化すべきことをい

その期の文学がナラシの在り様式と質をもつた  
ところに東大の文政監修諸君にせよ、此の企画として既成の  
形態があり、にもかくやうやうの耳向半日郎の外形  
の自説とは全く別個に成員的組織に結集し、そこでは、七曜  
張にもとおく社会的組織の一環としてこの文学の帝日主  
義の固編にて市民的として改名して、学生と部分的  
にしたがふる日本文學会ははじめて個人の平  
和、自由、よりよい生活は計り山の」といった利益、  
精神の開拓にせらるる諸君を結集せることである。以上の初回に立  
ててアーチオロギーによる翠山にて聰明的技術者の養成  
を要すし、かたゞも直の自由な教育、研究をもつてそ  
れが運営する所とされ相と運んでいることこそ、その  
あるいは、自己努力運動と云ふ出した社会國家統体への批判の運